

がん研究に係るプログラムの今後の在り方に関する検討会報告書 概要

概要

- 平成23年度から5年計画の「次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム」が平成27年度で終了することから、次年度以降のプログラムの在り方を検討するため、平成27年6月に検討会を設置。
- 現行プログラムは、目標の達成見通しを踏まえると、大きな成果を上げつつある一方で、標的探索研究の必要性や、研究の早期段階からの創薬専門家等との連携など、様々な課題が明らかとなった。
- これらの課題に対応しつつ、国民のニーズが一層高まっているがん研究に取り組む「ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト(JCRP)」におけるプログラムとして、国内外のがん研究の動向等を踏まえ、次期プログラムを推進する必要がある。

次期プログラムの目的・役割

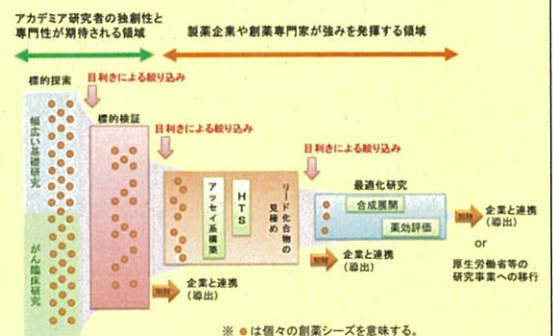
- 患者・社会と協働した研究を総合的かつ計画的に推進することにより、がんの根治、がんの予防、がんとの共生をより一層実現し、「がん対策推進基本計画」の全体目標の達成を目指す。
- JCRPの一環として、がんの生物学的解明に迫る研究と、がんゲノム情報などがん患者のデータに基づいた研究及びこれらの融合研究を推進して、実用化に向けて研究を加速し、早期段階で製薬企業等への導出を目指す。この際、他の研究事業等との役割分担と連携に留意する。

次世代のがん医療の創生に向けたがん研究

- 近年、科学技術の進歩が各種解析技術の飛躍的な発展をもたらしており、先端技術を駆使したがんの本態解明を通じて、従来では得られなかった精緻かつ大量のエビデンスに基づいた画期的な治療法・診断法の開発が可能となってきた。また、これまでの取組で個々の研究が進展し、さらにヘッドクォーター部門における進捗管理により、出口戦略を明確に意識した研究開発が進んできた。
- 次期プログラムでは、主として次の3つアプローチから研究を推進することが重要である。
 - (1) 先端技術を駆使することで、ヒトのがんの生物学的特性の解明を通じ、がん研究の質的飛躍を図る。
 - (2) 臨床研究者を含む研究プラットフォームを構築し、PDCAサイクルにより次世代の治療法を創生する。
 - (3) 異分野先端技術を融合し、がん治療や診断・予防法のパラダイム転換を目指す。
- これらの遂行により、具体的に実現が期待できる主な研究成果は以下のとおりである。
 - A. 患者に優しい高感度・高精度ながん診断法
 - B. がんの発症・進展・再発に係る代謝やタンパク質間相互作用に着目した新規治療法
 - C. 体内のがん細胞を取り巻く環境を制御し、患者の免疫機能を強化してがんを駆逐する革新的治療法
 - D. 患者体内における難治がんの動的な変化を標的にして、転移や再発を阻止する治療法
 - E. がん生物学と異分野先端技術の融合による新規創薬システム構築と、それによる新規がん治療法

入口から出口までの戦略的研究

- 有用性の高いがん治療薬や早期診断法を開発するためには、がんの発症・進展のメカニズムの解明が必須である。このため、標的となり得る分子標的を探索するための研究(標的探索研究)を推進する。
- 創薬専門家の関与のもと、標的検証の過程を重視する。
- 研究の早期段階での製薬企業等への導出を目指す。
- 各段階において厳格に目利き・見極めを行い、段階ごとにシーズを絞り込む。



研究を推進するための体制等

- これまでのノウハウを生かしつつ、日本医療研究開発機構(AMED)の統括的管理の下、進捗管理を行う。研究支援機能についても、AMEDや製薬企業等のリソースを積極的に活用する。
- 新しい領域を切り開くイノベーターとして若手研究者に期待し、支援する。
- 患者及び社会との協働を推進する。